

IAEA 技術国際会議の効果

高部英明

IAEA-TCM (注1) を通じて感じたことなど、

会議前日、カルロ・ルビア (84年ノーベル賞受賞者、彼については数々の逸話があり、例えばガリー・トープス著「ノーベル賞を獲った男」朝日新聞社1988年刊を読んで下さい。) がフロッピーを持って現れ"Mac"の前に座り自分の論文を出力、図を回転させたりしながら OHP の原稿まで出力。感心しました。又発表での迫力といい、大いに見習うべし、です。

慣性核融合が炉となりうるかはドライバー (巨大レーザーのこと) が決定要素、とは皆の一致した認識。それにしては、ドライバーの会議である TCM で質問もあまり出ず静かであったのは残念。新しい話題が少ないとか、ドライバーは小回りがききにくい云々。とはいえビーム均一化などアイデアが生かされる分野があるので、もっと小回りのきく新規性のある話題作りに期待したい。

発表・討論はともかく、この手の会議は「開催された」ということ自体にも価値有り。Sudan 先生 (米国コーネル大教授) の話ではないが、研究者が世界中から集い情報を交換し互いに親しく知り合い、旧交を暖める。これだけでも会議の精神は生かされていると感じた次第です。

「レーザー研の発表に consistency ありや？」私も発表した1人として自問しています。本当に24ビームで均一性大丈夫？もっと増やしたら？まじめに stability 考えられるの？Initial imprint どう避けるの？Safety factor 含めて2 - 3%の均一性でOKなの？いや、もう1ケタ均一性向上必要じゃないの？GXII が12本だから up-grade は24本と現在のシステムに発想が拘束されているのでは？もっと自由に零からの発想は？などなど、参加者に質問されたり、自問したりです。中井先生が言っているように「100kJoule 点火を我々がどこまで確信しているか」が問われています。

TCM 効果、それぞれの方にいろんな形であったと思います。今後のセンターの研究方針にその効果が大いにプラスされることを願っています。

(注1) IAEA-“Technical Committee Meeting on Laser Fusion Drivers” 大阪で4月に開催された。